

<第57回調査>

2014年02月24日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2014年02月12日(水)13:00~2014年02月19日(水)13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクストネオ』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの口座開設者にメールでアンケート回答URLを送付。

今回の有効回答数は1659件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

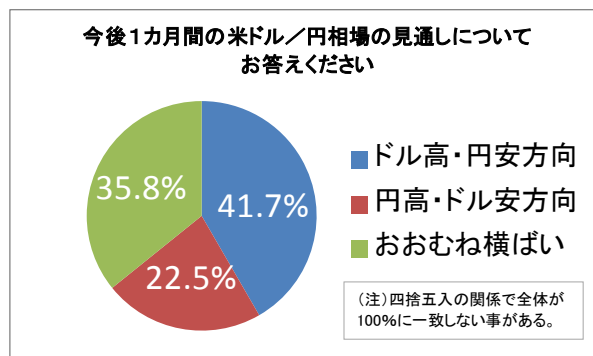
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第57回調査結果略報：アベノミクスへの評価がやや低下】

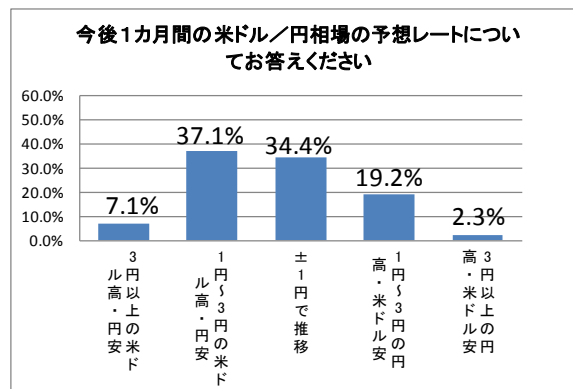
問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が41.7%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合は22.5%となった。この結果「米ドル/円予想DI」は+19.2%ポイントとなり、8カ月連続でプラスを維持したものの、プラス幅は前回の+24.1%ポイントからやや縮小した。調査期間中の米ドル/円相場は、101-102円台でもみ合いを続けており、下値は堅いが上値も重いという商状であった。米国景気の先行きに、悪天候の影響もあって不透明感が広がり始めた事などから、ドル強気(円弱気)姿勢の軟化傾向が続いているようだ。もっとも、回答割合を前月と比較すると「円高・ドル安」が減少、「おおむね横ばい」が増加となっており、ドル強気姿勢が後退したとはいえ、弱気に転じるほどではなく、調整的なみ合い継続を予想する向きが増加しているようだ。※過去の米ドル/円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」が37.1%と最も多く、「±1円で推移」が34.4%と続いた。「1円～3円の円高・ドル安」は19.2%、「3円以上の米ドル高・円安」は7.1%、「3円以上の円高・米ドル安」は2.3%という結果になった。ヒストグラムの形状は米ドル高・円安側に傾きながらも、その度合いは以前に比べると緩やかになっており、ドル強気・円弱気姿勢の軟化が示された問1の結果と整合的と言える。また、「±1円で推移」と答えた割合が前月(27.7%)と比べ大きく増加している点も、問1で「おおむね横ばい」が増えた結果と整合的だ。「1円～3円の米ドル高・円安」と「±1円で推移」の合計で7割以上の回答を集めた点と、調査期間中の米ドル/円相場の平均(終値ベース)から推測されるFX投資家の今後1カ月の予想レンジは、およそ101円～105円となる。

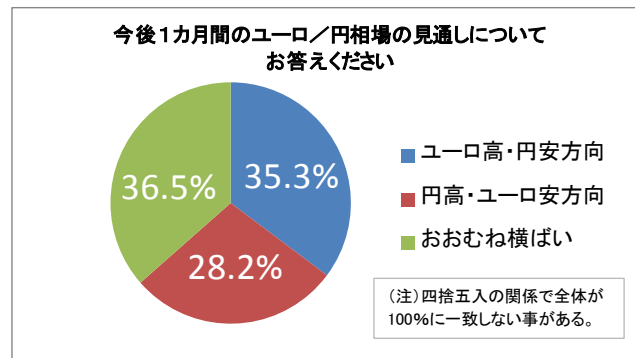


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

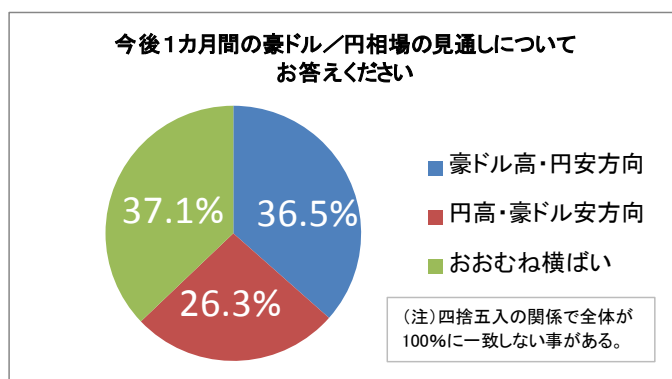
「今後1カ月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が35.3%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が28.2%となった。この結果「ユーロ円予想DIは+7.1%ポイント」となり、前月(+7.5%ポイント)に続きプラス幅が一桁台にとどまった。調査期間中のユーロ/円相場は、138~139円台でもみ合っていたが、18日に一時141円台まで急騰した。こうした展開にもかかわらず、ユーロ/円予想DIはわずかとはいえプラス幅が縮小しており、相場の上昇にユーロ強気予想が触発された形跡は見られない。もっとも、ここでも「おおむね横ばい」と答えた割合が高く、ユーロ弱気・円強気の予想は少数だ。FX投資家らが逆張りのユーロ売りに動く可能性は大きくなさそうだ。※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の豪ドル/円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が36.5%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は26.3%となった。この結果「豪ドル/円予想DI」は+10.2%ポイントと3カ月ぶりにプラスを回復し、豪ドル強気・円弱気予想が優勢となった。調査期間中の豪ドル/円相場は、91円付近から93円付近のレンジで上下するなど方向感に欠ける展開であったが、豪準備銀行(RBA)による追加利下げ観測が後退しつつある中、新興国不安の最中に付けた2月3日安値(88.230円)からは下値を切り上げている。こうした底堅さの中に、一部のFX投資家は反発の機運を感じ始めたのかもしれない。

※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

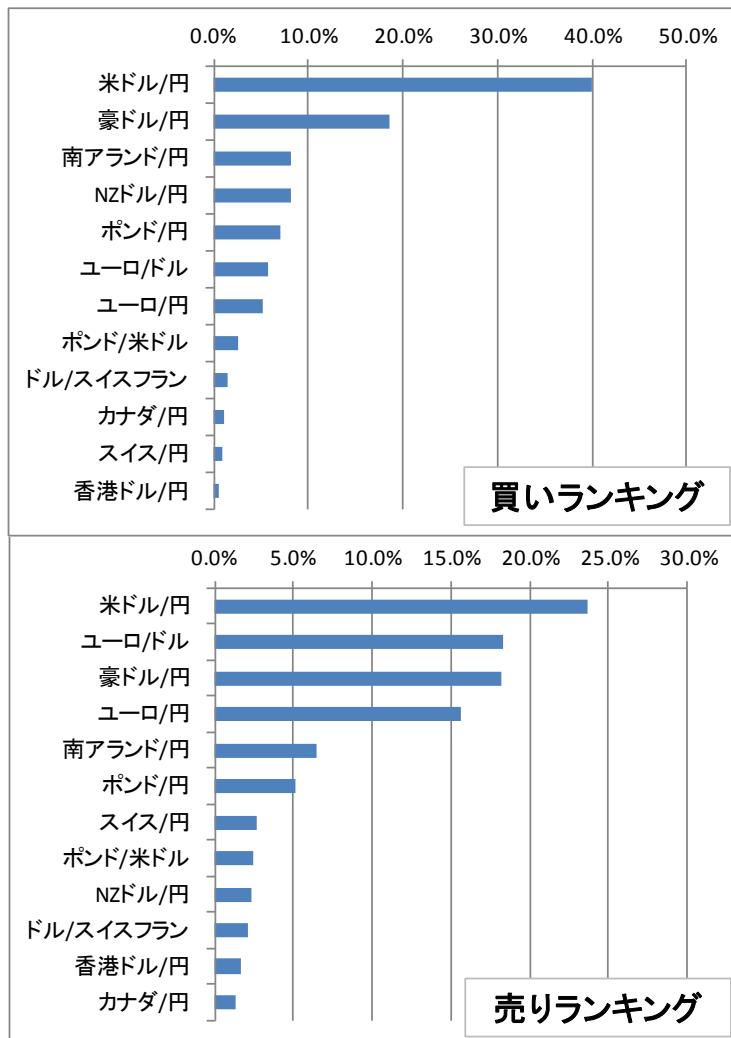


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位米ドル/円(40.1%)、2位豪ドル/円(18.7%)、3位南アランド/円(8.3%)、4位NZドル/円(8.1%)となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位米ドル/円(23.7%)、2位ユーロ/ドル(18.3%)、3位豪ドル/円(18.1%)、4位ユーロ/円(15.7%)となった。「買い」で注目の通貨ペアについては、米ドル/円が17カ月連続でトップの座をキープした。ただし、回答割合は前月の48.6%からやや低下した上に、2位の豪ドル/円は前月(12.3%)から回答割合を伸ばしており、その差は36.3%ポイントから21.4%ポイントに縮まった。また、南アランド/円が前回の6位から回答割合の増加を伴って3位に急上昇した。資源国通貨や新興国通貨の下落に一服感が出た事で、FX投資家の間に押し目買い意欲が生じ始めているようだ。その一方で、ユーロ/円は前月の4位から7位に順位を下げており、足元の上昇に懐疑的な見方を示すFX投資家は少なくない模様だ。なお、「売り」で注目のランキングについては、前月から順位に変化なく、回答割合もおおむね変化がなかった。

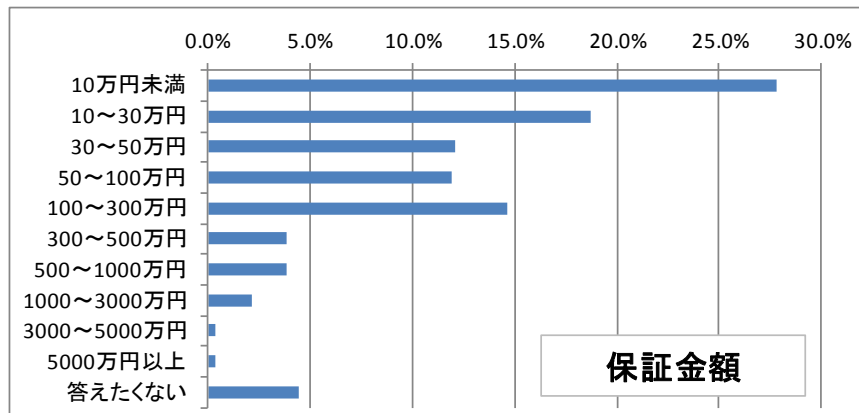


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

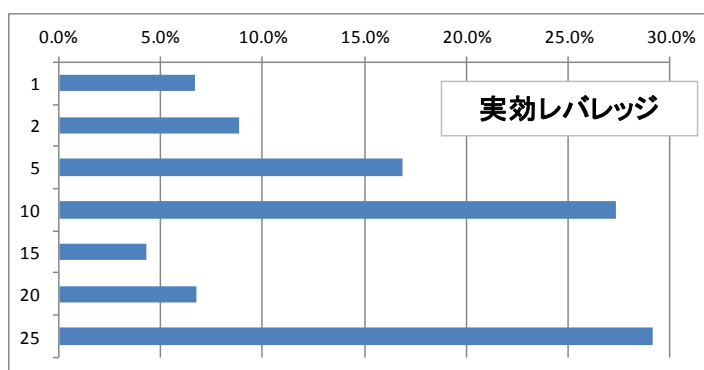
問6: FX取引の際の取引保証金の額についてお答えください(ひとつだけ)

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が27.8%と最も多く、以下「10～30万円(18.7%)」、「100～300万円(14.6%)」、「30～50万円(12.1%)」、「50～100万円(11.9%)」と続いた。100万円以下の合算割合が70.5%に達しており、小額の保証金で取引が可能というFX取引の特性が良く表れた回答結果と言える。過去1年の推移を見ても、今回の調査結果とおおむね同様であり、FX投資家の保証金は、相場環境などに左右されて増減する事は少ないようだ。



問7: 現在の[実効レバレッジ]で最も近いものを選択ください(ひとつだけ)

「現在の[実効レバレッジ]」について尋ねたところ、「25倍」と答えた割合が29.1%と最も多く、「10倍」が27.4%、「5倍」が16.9%と続き、以下、「2倍」が8.9%、「20倍」が6.7%と続いた。レバレッジに関する質問の内容を「主に活用するレバレッジ」という回答者の主観に基づくものから「実効レバレッジ」という客観的なものに変更して今回が4回目の調査となるが、いずれも「25倍」と答えた割合は30%弱となっている。また、「10倍」も25%前後で変わらない。「実効レバレッジ」とはいえ、結果的に「10倍」や「25倍」前後になったと言うよりも、FX投資家らは、ある程度コントロールして「10倍」や「25倍」前後に近づけているのだろう。

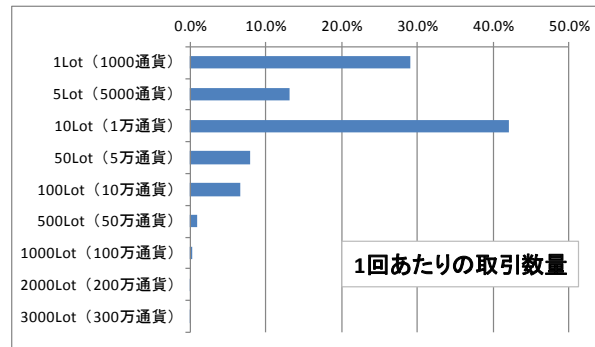


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

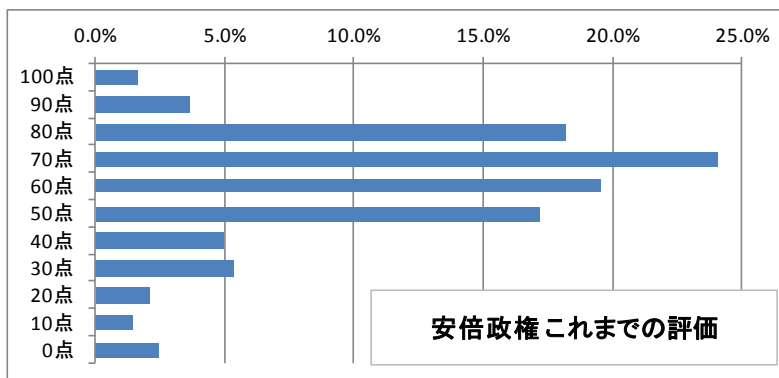
問8: 一度に注文する注文数量で最も近いものを選択ください。(ひとつだけ)

「一度に注文する注文数量で最も近いものを選択ください。(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「10Lot (1万通貨)」と答えた割合が42.1%と最も多く、以下「1Lot(1000通貨)」が29.1%、「5Lot(5000通貨)」が13.1%、「50Lot(5万通貨)」が7.9%、「100Lot(10万通貨)」が6.6%と続いた。この質問も、今回が4回目となるが、いずれの回も10Lotが4割を超えており、1Lotが3割前後という結果である。1Lot(1000通貨)や10Lot(1万通貨)は、比較的、円貨換算が容易でポジション管理も容易なため選ばれやすいのだろう。同じキリの良い100Lot(10万通貨)の割合が低いのは、米ドル/円の取引なら10万ドル≒1020万円という比較的高額の取引となってしまう、最低でも約40万円以上の保証金が必要となる事がネックになっていると見られる。



問9: 2012年12月の安倍政権が発足以降、これまでの経済政策を評価するならば、何点でしょうか(ひとつだけ)

今月の特別質問項目として「2012年12月の安倍政権が発足以降、これまでの経済政策を評価するならば、何点でしょうか(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「70点」とした割合が24.0%と最も多く、以下「60点(19.5%)」、「80点(18.1%)」、「50点(17.1%)」と続いた。なお、「100点」は1.6%、「0点」とした回答も2.4%あった。また、全回答者の平均は60.5点となった。同様の質問をした1年前の第45回調査では、「80点(25.7%)」と答えた割合が最も多く、平均点も67.3点であったことから、過去一年でやや評価を落とした事になる。評価のポイントについての自由記述については、70点以上の比較的高得点を付けた向きからは「円安・株高の実現」を挙げる声が多かった。一方、40点以下の低い評価を下した向きからは「期待感だけで実効性に疑問」との声が多く、「景気回復の実感がない」、「所得は増えないのに税負担は増える」などといった不満の声が上がっていた。

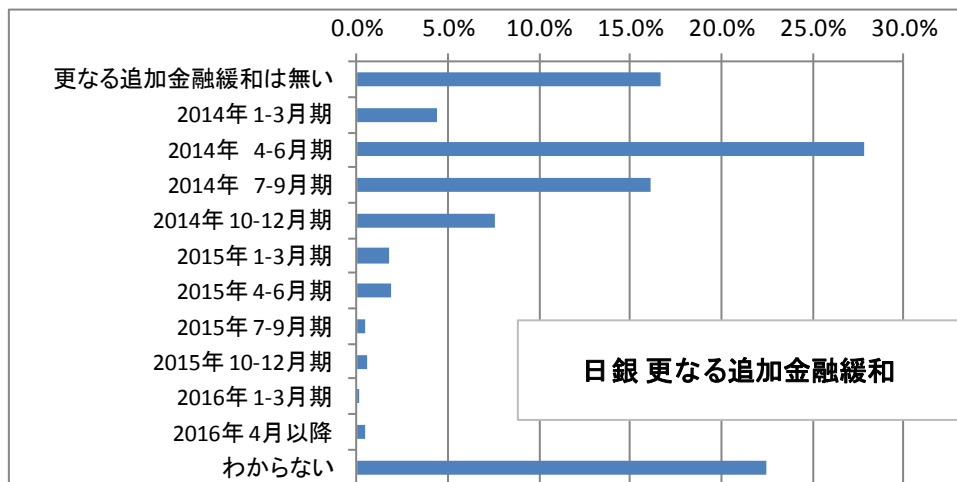


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問10: 日銀による更なる追加金融緩和の実施時期は？(ひとつだけ)

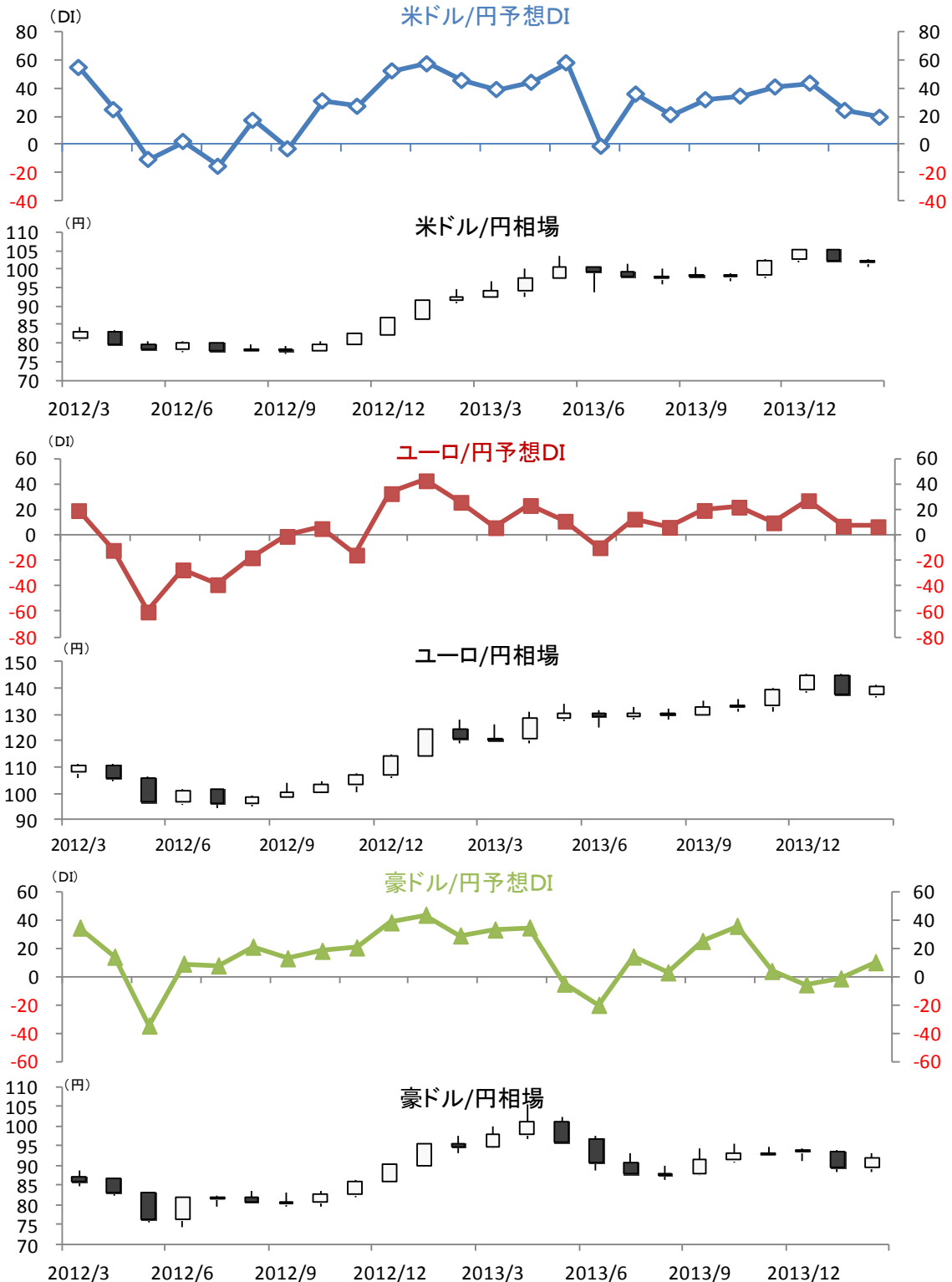
今月のもうひとつの特別質問項目として「日銀による更なる追加金融緩和の実施時期は？(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「2014年4-6月期」と答えた割合が27.8%と最も多く、「わからない(22.4%)」、「更なる追加緩和はない(16.6%)」、「2014年7-9月期(16.1%)」と続いた。日銀が追加緩和に動くとするれば、2014年4月の消費増税直後という読みが働いているようだ。確かに、黒田日銀総裁も「下ブレリスクが顕在化すれば躊躇なく異次元緩和を調整する」としており、消費増税によって予想以上に景気回復にブレーキがかかるようなら、追加緩和に動く可能性が高まる。一方で、黒田総裁は「消費増税後も大きなネガティブな影響は起きない」と先行きに自信を示しており、総裁の読みどおりなら追加緩和の可能性はほぼないと言って良いだろう。こうした点が、「2014年4-6月期」の追加緩和を見込む向きが多い半面、「追加緩和はない」と見る向きも少なくないという回答結果につながったと考えられる。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第57回目となりました。調査開始から5年近くが経過し、データの蓄積が進んできました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などのほか、中長期的な視点に基づいたFX投資家の投資スタイルの変化などの考察も進めていきたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2012年	3月	67.0	12.5	54.5	43.4	23.7	19.7	52.5	17.7	34.8
	4月	45.1	20.5	24.6	29.8	41.3	-11.5	40.8	26.7	14.1
	5月	25.9	36.5	-10.6	11.7	71.5	-59.8	21.2	56.0	-34.8
	6月	30.9	28.8	2.1	27.3	54.1	-26.8	41.0	31.8	9.2
	7月	18.4	33.9	-15.5	19.7	58.1	-38.4	36.6	28.7	7.9
	8月	36.1	19.0	17.1	27.4	44.7	-17.3	43.0	21.8	21.2
	9月	27.9	31.0	-3.1	38.7	39.2	-0.5	40.2	27.2	13.0
	10月	44.9	14.0	30.9	39.1	33.5	5.6	42.4	24.1	18.3
	11月	48.5	21.5	27.0	27.9	43.1	-15.2	44.0	23.3	20.7
	12月	69.2	17.1	52.1	56.2	23.2	33.0	56.2	17.7	38.5
	1月	70.7	13.6	57.1	61.4	18.3	43.1	60.3	16.4	43.9
	2013年	2月	60.0	14.7	45.3	50.1	23.9	26.2	48.6	19.4
3月		55.5	16.6	38.9	37.2	30.9	6.3	53.0	19.6	33.4
4月		61.4	17.4	44.0	49.5	25.8	23.7	56.1	21.2	34.9
5月		70.5	12.7	57.8	37.3	25.9	11.4	27.7	32.7	-5.0
6月		37.5	38.8	-1.3	31.4	40.8	-9.4	28.2	48.3	-20.1
7月		52.3	16.6	35.7	37.3	24.3	13.0	38.4	24.2	14.2
8月		43.7	22.7	21.0	34.1	27.5	6.6	34.8	31.8	3.0
9月		49.8	18.1	31.7	40.8	21.0	19.8	46.5	21.2	25.3
10月		54.8	20.6	34.2	40.8	18.4	22.4	53.1	17.1	36.0
11月		53.2	12.5	40.7	34.8	24.7	10.1	31.8	27.8	4.0
12月		59.5	16.1	43.4	48.2	20.7	27.5	27.3	32.8	-5.5
2014年		1月	47.2	23.1	24.1	37.2	29.7	7.5	28.1	29.4
	2月	41.7	22.5	19.2	35.3	28.2	7.1	36.5	26.3	10.2

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com